

竹駒地区

■ 基本的考え方

防潮堤 防潮堤・水門は12.5mで整備

○高田沖に防潮堤・河口水門を12.5m（既存防潮堤は5.5m）で整備する。

住宅 地元意向踏まえた住宅再建 → 現位置での住宅再建、高台移転とも可能

○防潮堤・河口水門整備により、家屋が全壊する危険性が少なくなることから、現位置での建て替えが可能である。

○一方、地区意向調査結果で挙げられた移転候補地を基本に、以下の条件を考慮して高台の移転候補地を選定した。

- ① 埋蔵文化財（散布地除く）、景観、自然環境保全上重要な箇所（目につきやすい斜面等）、急傾斜地、保安林等を避ける。
- ② 1宅地面積：400㎡程度。

道路 災害時の骨格道路として機能するよう国道340号を一部改良

○国道340号の未改良区間（相川～廻館橋）の拡幅改良を要望。

○市道相川新田線の改良。

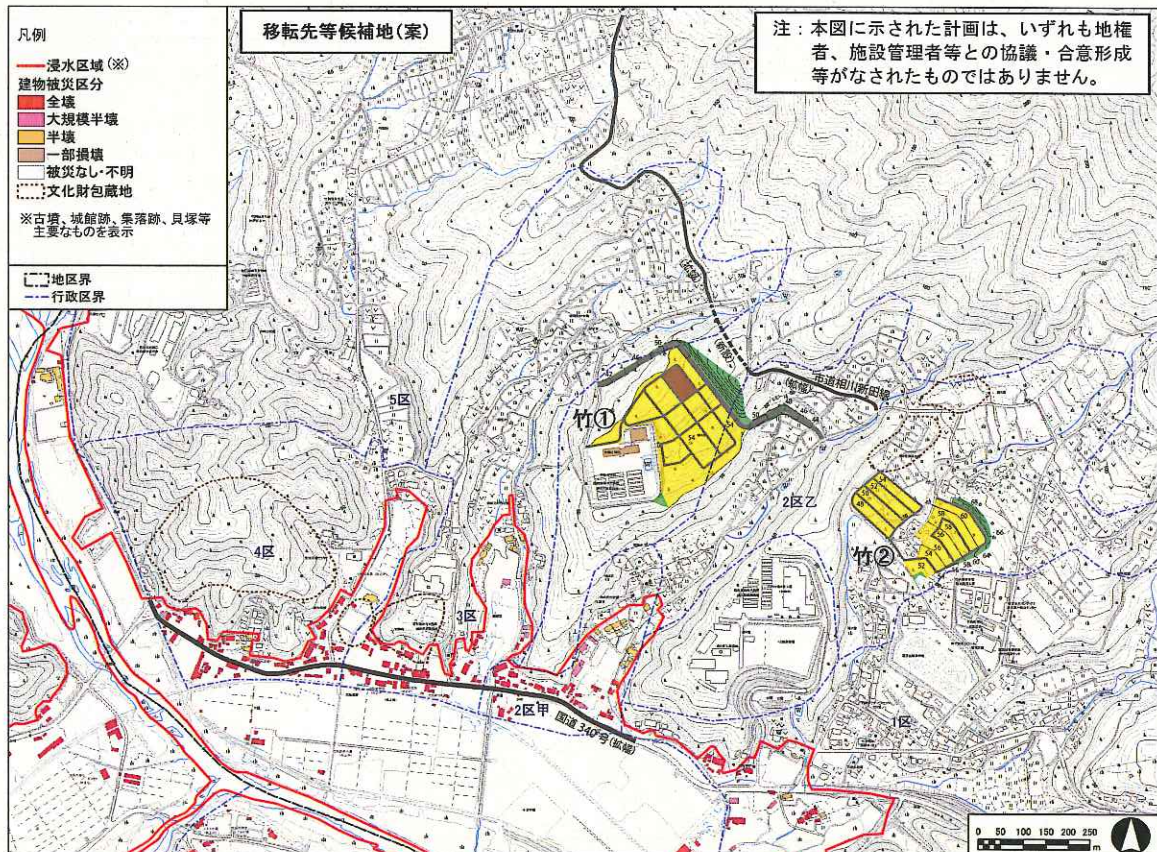
公共施設等 高台に用地を確保し、移転

○被災した竹駒保育園や消防屯所を高台へ移転整備。

表 被災各行政区の被災状況、地区意向調査結果、及び移転先（案） ※6月27日市民意向現地調査結果

	戸数	全半壊戸数	必要宅地面積 (ha)	地区意向調査結果			移転先（案） （番号は下図と対応）
				住民の意向	移転候補地の情報	その他	
1区	83	8	0.5	・高台への移転希望が1世帯			竹①または竹② （いずれも高台）
2区甲	26	22	1.3	・現位置での住宅再建、高台移転の両方			竹①または竹② （いずれも高台）
2区乙	64	0	0.0	（被災なし）	・工業団地北側		
3区	54	22	1.3	・現位置での住宅再建希望者が多い	・竹駒小学校北側		竹①（高台）
4区	50	24	1.4	・高台への移転希望が1世帯（自分の土地）	・館の山の一部		竹①（高台）
5区	52	0	0.0	（被災なし）			
6区	38	0	0.0	（被災なし）			
7区	58	0	0.0	（被災なし）			
合計	425	76	4.5				

（備考）必要宅地面積＝全半壊戸数×400㎡/戸／（1－公共用地率(0.3)）



※本図に示した浸水区域は、現在作業中のものであり、実際と異なる場合があります。

※平成23年11月10日現在のものです。